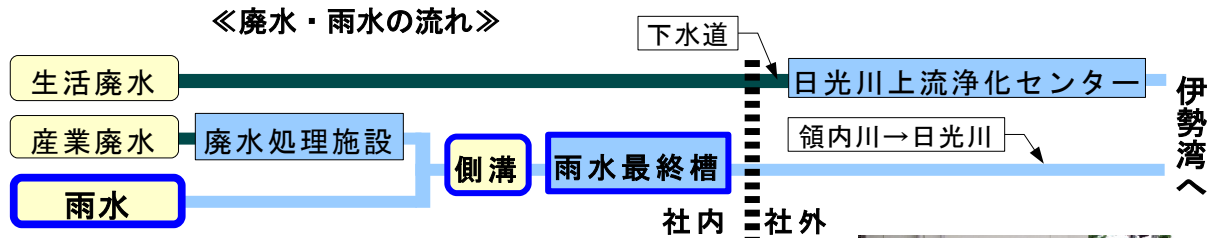


… 水に関する環境側面 “その3” … わが社の『雨水』

その1で『生活廃水』、その2で『産業廃水』を、最終回として『雨水』について紹介します。



◇雨水は、側溝から雨水最終槽に一旦溜まり、道路に付着していた油分を回収した上で、領内川に放流します。
(最終槽は、別途、防火水槽の役割もあります)

◇雨水側溝は、雨水専用なので、それ以外は絶対流さない取組みが必要です。万が一、薬品、油分、異物が流出したら、河川を汚濁・汚染してしまい、浄化・復元するのに莫大な費用が掛かるばかりか、操業停止となる場合もあります。

雨水最終槽は、pHを常時測定しており、異常があれば24時間いつでも自動的にESSGメンバーの携帯電話へ連絡され、対応します。緊急連絡は、以前は年に1~2回ありましたが、ここ2年は0回です。過去の異常排水で原因が判明しているのは、セメントを練った容器の洗浄水を雨水側溝に流したケースがありました。

◇雨水側溝には、緊急堰が3ヶ所あります。油などが流出した場合、手作業で側溝に板を入れて、“一時的”ですが緊急堰で止める仕組みになっています。その為の訓練は、定期的に行って緊急事態を起さない様に努めています。

◇近年、ゲリラ豪雨により、第4・5工場南側の構内道路が、数回冠水しました。排水能力が低い原因は、社外用水に放流される排水口の角度が直角で、また、巾が狭いからだと考えました。よって、排水口の角度と巾の改修工事を行い排水能力を高める対応を取りました。



6月は「環境月間」です。

“環境月間”は、1972年6月5日から約1ヶ月間、ストックホルムで開催された「国連人間環境会議」を記念して、環境保全についての関心と理解を深めると共に、活動への積極的な参画を意図して設けられました。

6月5日を国連では「世界環境デー」に、日本では「環境の日」に、また6月を「環境月間」に決めました。今日では、国・自治体・企業・地域団体、それぞれで普及啓発事業が行われています。愛知県でも、例年「環境月間県民のつどい」が開催されています。

“2011年 環境月間”に考えよう <東日本大震災後の今夏の取り組み>

福島第1原発での事故は、電力需給を逼迫させ、首都圏も計画停電によって大混乱に陥りました。それは同時に、政府の中長期エネルギー計画自体の見直しを余儀なくさせました。

また、東海地方でも、東海・南海・東南海地震で想定される地震津波対策を前倒しするため、浜岡原発が全面停止となりました。これにより心配される電力不足を補うため、産業界それぞれで、稼働日の業界別輪番制が実施されようとしています。

わが社でも、電気炉などの断熱性を高め、熱源からの発熱を抑える様にしたり、コンプレッサの供給圧力を低減させるとか、白熱灯をLED照明に交換する(△85%の節電効果がある)等、各部署で対応を考え、一人ひとりが創意工夫し、この地域で突発停電が起きないようにする、企業としての責任があります。

この困難を乗り越えるには、各企業と各個人が知恵を出して、やれることを前向きに取り組んで行く以外にありません。

誰でもできる快適な日々への提案

COOLBIZ (クールビズ)

「室温28℃でも快適に過ごす事のできるライフスタイルを築こう！」これがクールビズのテーマです。例年は6月からですが、今年は震災の影響もあり、2ヶ月間延長して5月~10月の半年間になりました。室温を28℃に設定しても快適に過ごせるよう、涼しい軽装で一日過ごすと同時に、通気性を高めるために室内のレイアウトを工夫したり、パソコンなどの発熱をカットする等、みんなで知恵を出し合い、暑い夏を快適に過ごせるようにしましょう。

スマートライフ

“スマートライフ”ってどういうものかご存知でしょうか？省エネルギーというと、多くの人が我慢や節約というイメージでとらえがちですが、そういう見方ではなく、地球規模での環境問題の改善という観点からとらえ、エネルギーを効率的に使い、“かしこくシンプルな生活”を実践していくという、新しいライフスタイルの事です。

席を離れる時のこまめな消灯、使用後のウォシュレットのふた閉め、電気製品の待機電力のカット、車運転時の急発進、急加速をしないことも、スマートライフの実践です。

これまで何気なく見過ごしてしまっている生活の中の無駄や環境負荷に対する無頓着をこの機会に、一度立ち止まって、よく見直してみましよう！